

森林・水環境保全のための実証活動支援事業（継続）

【平成24年度概算決定額 8, 3 2 4（9, 2 4 9）千円】

事業のポイント

砂漠化や水資源問題が深刻化する地域において、水収支バランス等に対する植林活動等の短期的な負の影響を考慮しつつ適切に森林造成・管理を進めるための手法を提案します。

（事業の背景等）

- ・ 森林減少が少なからず影響を及ぼしている気候変動は、洪水のみならず渇水の危険性をも増加するとされており、地球環境保全、人間の安全保障等の観点から、長期にわたって森林復旧を推進することが重要です。
- ・ しかしながら、乾燥地において植林活動などを実施する場合、森林自体も水を消費するものであるため、水収支バランス等に対する植林活動等の短期的な負の影響を考慮しつつ、現地で適切に森林造成・管理活動を行うための手法の開発が必要です。

政策目標

- 気候変動問題等地球的規模の課題への適切な対応
- 事業終了（25年度末）後3年以内に、本事業で作成した技術指針がケニアの乾燥地植林の参考マニュアルとして採用される。

<内容>

1. 植林候補地選定手法検討

現地調査や衛星画像等を活用して、対象地域の砂漠化や水資源・森林植生分布状況、住民の森林利用状況等を把握し、森林造成・管理活動の候補地を選定します。

2. 森林造成・管理手法の提案

住民の協力を得つつ現地で森林造成・管理等に関する実証的活動を行い、得られた結果をもとに、水収支バランスの変化に配慮した現地で適用可能な緑地回復の手法を提案します。

3. 研修及びワークショップの実施

行政職員及び農民等への研修やワークショップを通じて、事業成果の普及を図ります。

<補助率>

定額

<事業実施主体>

民間団体等

<事業実施期間>

平成21年度～25年度（5年間）

[担当課：林野庁計画課]